

昇格セミナー宿泊研修会報告書

平成 22 年 8 月 15 日

概要	日時	2010年8月14日(土) 11:00~15日(日) 18:00		
	場所	試合会場：産業能率大学第二グラウンド 宿泊先：神奈川県大山 大滝荘 たけだ旅館		
	主催者	神奈川県サッカー審判協会		
	テーマ	レフェリーのチームワーク(協力)		
	受講者	21名(観戦者3名含む)		
	指導者	今井春夫 砂川恵一 名取洋典 大塚真	事務局	石井陽一 兼井新一(記)
内容	<p>【目標】 大学1リーグの試合の運営・審判をスムーズに行い、審判員のレベルアップを図る。</p> <p>【具体的内容】 (1) 主審・副審・第4の審判員の基本的役割(チームワーク)を確認し、良いゲームコントロールを行う。 (2) 審判員が4人でチームとして試合で行なうべき任務について確認し、4人で良いゲームをコントロールする。</p> <p>【実技研修】 関東大学サッカー1リーグ 試合開始：第一試合 13:00、第二試合 15:00 試合時間：90分</p> <p><1日目> 第一試合 産業能率大学 B2 vs. 筑波大学蹴球部 A スコア 1:4 (0-2) (1-2) 主審 高寺恒如 副審 兼井新一 副審 高松伸行 第4審判 名取洋典 第二試合 専修大学 FC B vs. MEIKAI UNIV. FC B スコア 7:1 (2-1) (5-0) 主審 織戸勝 副審 阿部信久 副審 新堀隆 第4審判 若林勇成</p> <p><2日目> 第一試合 SANNO MANTI vs. 筑波大学蹴球部 B スコア 0:2 (0-1) (0-1) 主審 若松亮 副審 古川悟弘 副審 石井陽一 第4審判 芦川健一 第二試合 KU-defazio vs. 成蹊大学体育会蹴球 スコア 2:3 (0-1) (2-2) 主審 砂田健 副審 甲斐敬二 副審 伊藤哲一 第4審判 砂川君枝</p> <p>【試合分析研修】 ・ 1日目の2試合をビデオ分析し、審判団に確認しながら、ファウル判定やゲームコントロールなどを検証し、お互いの見方・考え方を理解し、自己成長を図った。</p> <p><課題> ・ ゲームのスピードや攻守切り換えが早いチームへの対応力 ・ ゲームの状況に応じた予期・予測・読み ・ アドバンテージがうまくいかない場合、ファウルをした選手への処置および注意 ・ マンマネージメントがしっかりできること</p> <p>【プラクティカルトレーニング】 (1) フラッグテクニック(全日本少年大会でのトレーニングを若松亮氏よりコーチング) (2) 縦パス対策とスムーズな動き出し</p>			

所
感

<1日目>

薄曇りの気温 30℃と良いコンディションの中で実施された。1 試合目は高寺恒如氏が主審を担当し、競技者とのコミュニケーションを積極的に取ろうと行った結果、試合が荒れることもなく無難に終了。本人は競技者のプレーの予測が上手く出来ず、ポジショニングに課題があったと反省を述べた。2 試合目は、いきなり「著しく不正なファウルプレー」で退場者が出て、6点差の一方的な試合になったが、主審の織戸勝氏は最後まで集中力をきらすことなく、上手くゲームコントロールをし問題なく終了した。試合会場だけの参加だったが、今井理事長より若手審判員へ貴重なアドバイスを頂いた。

試合分析研修での冒頭に全日本少年大会に参加し、決勝の4th オフィシャルをした若松亮氏の高円宮妃殿下・小倉会長との握手した印象や、松崎委員長や西村雄一氏と会談し感じたことなど多くの経験話をしてもらった。

試合分析では、自分だったらどうしたか、他にできることはないかなど議論し、深堀した。その後、懇親会を開催し夜遅くまで意見を交わした。

<2日目>

猛暑で人工芝のピッチ上は40℃を超える暑さの中、1 試合目は13時から主審若松亮氏で開始されるが、熱中症でハーフタイム主審交代の心配もあったが、主審最後まで気力で頑張り無事終了。本人もこれまで経験したことの無い過酷な状況だったと感想を述べた。またこの試合、第4の審判の芦川健一氏は始めて正式な第4の審判を担当し、多くのことを学び良い勉強になったと言っていた。

2 試合目は気温も下がり、1 試合目より多少良い環境ではあったが、暑さで集中力が切れたのか、選手の用具に関する内容で最後までゲームコントロールに影響した。第4の審判とのコミュニケーション不足、選手とのやりとりの勘違いなど、課題はあったが、無事に砂田健主審によって研修会最後の試合を終わることができた。

猛暑の中、参加審判員は過酷な試合を経験することにより、忍耐力が養われ、それぞれの限界に挑戦しました。期間中、無事終了したことが大きな成果でありました。

最後に試合提供など研修会にご協力頂きました産業能率大学サッカー部の坂下博之監督およびスタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

ス
ナ
ッ
プ
写
真



兼井、高寺、名取、高松



試合分析研修



石井、若松、古川、芦川



無事2日間終了 全員で記念撮影

◎古川 悟弘

<感想>

・合宿一日目の夜に明日の抱負として、①90分楽しんでやりきる。②チームワーク良く試合運営する。③オフサイドラインをキープしてカウンターの際、ラインに遅れないようついていく。と宣言しました。

まず、1つ目は、暑さの中90分間全うできたと自分なりに思っていますし、またやりきったと満足しています。

・事前に綿密な打ち合わせをして、意思統一を図ったことで、全体的にスムーズに試合運営ができたと思います。具体的には、まず主審とのファウルサポートについては、オフenseファウルの場合はファウルが起こってから、すぐにフラッグアップをしないで主審を見て判断するという事前打ち合わせをしました。前半2回ほど私の目の前でディフェンス筑波大7番がオフenseを手で抑えているシーンがあり、私はすぐにフラッグアップしそうになりましたが、ぐっと我慢して、主審とのアイコンタクトで「オフenseがキープして頑張っているので流す」という感じだったのでそのまま意図的に流しました。ハーフタイムで主審に確認したら、それでOKだったということで、うまくいったと思いました。また、4thとはたびたび、声を掛け合って、けが人の対応、ベンチコントロール、競技者の交代などうまくできたと思います。

<反省>

・3つ目のオフサイドラインについてですが、オフサイドラインのキープは確実にしているつもりでしたが、暑さでボーっとしてしまい、気がついたら1mぐらいずれているのが何度かありました。それから、カウンターの際、自分も飛び出しを早くしてできるだけ選手についていくつもりでしたが、やはり選手の足の方が速く、2m以上（あとでビデオで確認したいと思います）置いていかれたシーンもありました。

・また、4thがA1側のベンチに来て「座ってください」と指示したシーンがあり、ベンチが「なんで？」という応答があって、ちょっともめそうな予感（結果的には何も起こらなかった）がしたので、そこでフィールドからベンチに目をやったその瞬間ボールがタッチラインを割って、たまたま主審も方向に自信がなかったようで、二人で見合わせて自信がないまま、二人で方向を指してしまったシーンがありました。

<今後の課題>

・まずは、暑さの中でも90分間、さらにより良いコンディションで試合をコントロールできるよう、体力面のさらなる向上を図りたいと思います。個人的には、高校・社会人での主審の経験は数多くありますが、大学での主審の機会が昨年から5回ほどしかないので、ぜひこのレベルでの主審の経験も積みたいと思います。

◎甲斐 敬二

<感想>

・参加者と普段疑問に思っている事などの話が少しできたこと。
・プラティカルはためになった。

<反省>

普段のトレーニング、考え方、準備等について、もう少し会話ができればよかった。

<今後の課題>

- ・暑さ対策
- ・体力の強化
- ・競技規則の再確認

◎芦川 健一

<感想>

・技術の向上だけでなく、レフェリングの楽しさも感じられた半年間でした。
・レフェリーに対する見方が変わり、試合を見ているもレフェリーの動きを追うようになりました。
・受講生やインストラクターの方々をはじめ、多くの方と良いコミュニケーションが取れ、とても楽しい講習でした。

<反省>

・実技に集中しすぎて、競技規則への理解を深めることが足りなかった。
・実践や座学だけでなく、観戦型の講習会などを利用すべきだった。
・目の前の課題をクリアすることに夢中で、もっと長いスパンでの目標設定ができなかった。

<今後の課題>

- ・モチベーションの持続
- ・3級昇格試験に向けたさらなるレフェリング技術の向上、レフェリングの自己分析